

習 慣 き	健 康 の 習 慣	行 事
<p>○寒くなると手を洗う事が粗末になるからもう一度丁寧<small>ねい</small>に洗う事を約束する</p> <p>○人になにかしていただいた時は「ありがとうございます」といいますよ。</p> <p>○お友達をおしのけて先にしたりしないので順番に番をまちなしよ。</p>	<p>○十一月の身長体重測定</p> <p>○なるべく戸外であそびましょ。</p> <p>次第に寒くなると部屋にとじこもりがちですからお天気<small>あき</small>のよい日は外でなるべく遊ぶようにしましょ。</p> <p>○帰宅後のうがいは寒くなるから特別よくしましょ</p>	<p>○文化の日</p> <p>○勤労感謝の日</p> <p>○十一月のお誕生会</p>
<p>○手を洗う事を再び約束。</p> <p>年少と同じ</p> <p>○手洗所へ入る時は叩いてから入りましょ。</p> <p>○人に聞かれたときははつきりと返事をしましょ。</p>	<p>年少と同じ</p>	<p>年少と同じ</p>

十一月の保育所

鈴木 とく

私達がこの月の保育を、どの様にしたらいいかと考える時、自分の受持つ組の事をまず考えます。そして、それを実行する為、必

ず他の組との連絡が必要になります。出来ましたら、園長、主任を圍んで、その方達と共に、その月の、その保育所の保育を、どう運ぶかについて、主となる方の意見をきき、保母も亦、それに対して考えをのべて、いろいろと計画を立て、順序をねり、運び方について保母の考えを話合、と云う事が必要です。この事に慣れずに、

たゞ、主となる方の、一方的な立案をきき、この様にしたらよいと云はれるまゝにする事に慣れてしまいますと、それは安易ですが、自分が責任をもつた幼児のために、各方面から考えて、無理のない生活のさせ方をしようと、念慮する機会を逃がしがちになってしまいます。

殊に保育所は、各自の年令による受持ちの組、或は他の方法による受持ちの組だけで、その計画のまゝに生活させる事が出来ない場合が沢山あります。保育所内の部屋数とか、設備の關係とか、保母の出勤の状況とかで、必ず、他の組との事を、たえず念頭においていないと、その保育所全体の動きが、滑かに行かず、幼児のために気持ちよい雰囲気を保てなくなつてしまいます。自分の組の、その月の計画をたてたり、進行させたりするには、保育所全体の計画を知り、各々が他の組の計画を知り、それとどの様に連絡をして行けばよいかを考えなければなりません。実際的にも、部屋と云う冊をして、その中だけ、考え、行うわけには行かない事が多く、殊に、短時間の教育のみでなく、家庭生活に代るもの、であれば、なおさらこうした態度のみでは、すこせないのだ、との考えをしつかりさせて行きたいと思ひます。

それでは、十一月の保育所の事を計画する時、どの様な方面から考えていきたいと思いますか。私達は、しきたりの様に、先づ季節を考えそれに、幼児の生活をともなわせて行こうと考えがちです。

季節々々による保健上の注意は、その季節に特に、と云うものがありますから、季節が主体になつて、それに体の事を合せて考えて

いくべきでしょうか、幼児の保育の仕方、保育所内での生活のさせ方を考える時には、必しも、季節、行事、と云う事が、考えの主体になるべきなのか？と、も一度、反語してみてもいいのではないかと思います。自分の受け持つ幼児が、今どんな発育の度合にいるのか、どんな状態なのか、と、先第一にそこを凝視して、その所を基に計画をねつて、さて今の季節と行事に、適合させ得る個所は、どれとどれか、どの様にすれば適合させ方に無理がないか、と考えてみなければいけないのではないかと思います。この事は、ことに三、四才から一、二才を扱う方に申し上げたいことです。

十一月頃は、各年令なりに、落着きと、まとまりを感じると思ひます。四月から新しく受け持つたとしても、もう七ヶ月も共に過したのですから、個々の様子もわかり、二、三十人から四、五十人の塊としての幼児群と保母の間にかようこ、ろも、通じ合うものが出来ていると思ひます。いくつかのグループで継続製作や、共同製作も出来ましようし、進んで大人のしていることをやりたがつて、上手に手伝いが出来たり、年下の者の世話をしたがつたりもしましよう。年少組も、わけのわからないメチャク描きから、それらしい形のもの描けて行ける様に、何か、果実としての動きがとれる様になつて来ていると思ひます。

この様な状況を見ながら十一月の、季節を思ひますと、もう冬仕度をする地方もありましようし、まだく戸外生活を、沢山とり入れられる地方もありましようが、全体として、活動的と云うより、静的な面が多くなる季節の始りと思ひます。中旬以後は、寒さへの準備の時ともなりましよう。落着いて、静に、ことの出来る時季で

すが、身体的には、積極的に活動と、抵抗力を蓄えることも考えなければなりません。

これらの事から、遊びの計画や、保健、生活指導の予定や注意点が考えられますが、それ等の目標を考え、発展してくれ、ばと願う遊びの、各々の種類の、相互関係や、順序配列を考える前に、この月の行事と、関係づけられるかどうかを思つて、それをとり入れて関係づけることを重くするか、それとも、あつさりと扱つておくかを、自分の受持つ年令の状態をみてきめましょう。

十一月は、日本が文化国家として大きな発展をとげる為の創造神への祈りの日と、人間として理想生活への憧れと、それを培う基を思ふの日、「文化の日」と「勤労感謝の日」があります。この行事へ何等かの意味で関係づける遊びを、計画出来るのは、年長組（四月現在で五才児の組）と、中の組（同じく四才児の組）の、八月生れ迄の幼児ではないかと思ひます。

年少組（三、四才児）以下は、無理に、しようと思えば、出来ない事はないでしょうが、保母が、常より特に、情緒的雰囲気をつくり出す様、心掛けて行く位が、自然ではないかと思ひます。

「この様に」と思ふ遊びと、それに伴う生活指導の面、又、遊びの展開と関係しない生活指導や、保健上の注意等を、いくつか考えてみましょう。

◎落着き、と、ま、ま、り、の点から、いくつかのグループで、共同製作や、継続する分担作業等を計画して、創造精神が、活発に働く様にしたい。例えば、

○絵と折紙とで、幼児の発案になるものを、大紙に製作する。
○紙芝居をつくる。

○人形劇の人形を、分担してつくる。

○ねんど等で、各自の製作を組合せて、一つのまとまつたものを構成する。

○木工で、やさしいものを、之も幼児の発案になるものを、練ひき、鋸かけ釘うち等の分担で、組たてる。等々。

◎「文化の日」を一日丈の祝日と考えず、創造的な表現活動を、各年令相応なもので構成し、発表する様にしたい。

○製作展、

○人形劇場

○お話や、遊びから発展の劇あそび

この事には、出来たら、家庭の父母も、絵や、製作に出品したり保育所の職員も出品して、共に楽しむ計画をしてもいい、のではないのでしょうか。

◎勤労と美の創造は、生活の主体であることを感じとらせたい。

（平和な生活と云うことについて）

○民話、童話から、或は創作して、勤労の楽しさと、それによる美しい賜についてお話する事を通して感じさせる。

○大人の展覧会を見学する。（美術展や、菊の花展覧会等）

○何等かの生産過程を見る。働く人と、出来る物と、（之は都会地と農村では違う）

○勤労は、大勢のために奉仕している。美しい姿である事が、感じとられる様な労働の種類を選んで、見たり、話したりす

る。

こう云う風に考えて、之等のこと（もつと色々あるでしょうが）を、いくつかの項目に發展させて行く様にしたらよいと思います。

項目の中でとりあげる細い点——製作の種類とか、話の題とか、歌の曲目とか——はあくまで、其処の環境の幼児を考えてすべきですから、保母さんが、勤勞精神と創造精神とで、色々出版されているものを参考資料として組立る勉強をなさる様、幼児の為にそうした態度でありたいと思います。示されたものを、そのまゝ、とりいれる安直さに、慣れてしまわない様に。

保育は個人差をよく知つて、とか、あくまで個々の發達に依じてと云はれますが、それが本当だと思つても、与えられた四、五十人が、一つ或は、三つ四つの塊となつて、向い合う時は、何か困惑を感じます。ですから、何とか自由な気持で、幼児が、夫々の遊びをくり扱げられる様つとめましょう。

あれ、これと、計画した事の、環境をと、のえてあげましょう。各々のグループに目をとゞかせて、面白く發展して行く様、一寸したヒントを与えましょう。幼児を塊として扱う技術は、一種の創造精神であり、てまめ、と親切（之はやたらに、手伝うと云うことではなく、心の働き方として）から生れて来る様に思はれます。

製作の爲には、材料が豊富で、惜しみなく与える気持（ムダ使いをさせるのではなく）の余裕がいらします。経済が……と云わず、一

寸、お母さん方にお話すると、空箱、布切、包紙、薄板、等々。その方の余力は、絵の具、ねんど、折紙等へまわしましょう。

遊びが屋内的、靜的な方向にむいて行く事から、季節的配慮として、運動に注意したいと思います。

◎健康保育の面から

大人は、晩秋の肌寒さをすぐ感じて、元氣な幼児に迄、それを及ぼしたがりませんから、この事を注意しましょう。部屋遊びの気分轉換の上からも、必ず戸外遊びをしましょう。

夏、初秋から続きの裸体遊びは、そのまゝ、続けるか（年少児）乾布摩擦に代るかしみましょう。

年長児は自分で出来ませんが背中や、お友達同志で、こすり合う様にしましょう。一、二才の年少幼児は、午前中の日光浴を続けたりおひるねの寢巻に着換えをする時、こすつてあげる様にしましょう。

短時間で運動量の多い遊び、たとえば、鬼ごつこの種々な変型を考えたり、梯子をフランクにかけて登り、おひる時はフランクの柱から滑りおひる等、運動会用の帽子や、鉢巻は、藏つてしまわないで帽子とゆや、帽子リレー等に使いましょう。

この月末から、心配性のお母さん方は、必要以上の着せ方をなさつていきますから、登所後、遊びの時に、保母が一々注意して調節をはかりましょう。

十月末からこの月初めに、登所後塩水の含漱を忘れずする様に、朝早番の保母は、こしらえておきましょう。ガラ／＼と、のどをす

る方です。帰宅後、家でもする様に、連絡がつけば、それがいい、のですが、お母さんたちは忘れがちですから、保育所を出る時に又させる様にしましょう。風邪引の予防のためです。

寒さに向うにつれて、皮膚の清潔がちになります。お昼寝の着換の折等、よくみて、家庭に、入浴の事を伝えるなり、お湯をおかして拭いてあげるなりする心づかいは、保母として、当然の事でしょう（私は、なるべく、年長児をのみ対象としない様に考えているのですが、三才児や、一、二才児のことについて、少しくわしくと思うと、「何月の保育所」と云うことに当てはまらなくなるものがあるので、所々で、年少児も含めて甲し上げるつもりで居ります。）

生活指導の面からの事を項目たてる前に、この月頃の、年長組、中組の五才になつた幼児は、進んで、大人のする事をしたり、手伝うことが嬉しかつたり、年下のものをかまつてやりたがつたりする状態にあることを、計画の考え方について申し上げた時に云いましたが、その事を、何とか、家庭的な保育所の雰囲気をつくる上から保育の面にとりあげたいものです。これについては、保母が、年令別の組の責任にのみ固執しては出来ませんし、気がばりも、複雑になりますので、従来の学校教育的な点に、重点をおく方にとつては、もすこしホームライフな気分を、たつぷり用意しないと、混乱が起ると思ひます。

おやつ、食事、誕生祝い、散歩、お帰リ等々、生活の場面で、年長、年中、年少の三人単位の組合せの生活は、進んで保母の手伝い

にもなり、年少児への同情や親切の発露にもなります。（一、二才児ははぶきます）

この他、年長組には、園長会や、保母会が保育中の施設で行はれたりする時、又は来客等に、適当な応待を、まゝごとでなく、本当にさせてあげることもよいのではないのでしょうか。

三才児組はこの頃では、一応、いろいろな事が、すこしづ、きちんと出来上つて来る状態が現れ出します（個々には、もつと早い幼児がありますが、組としてまとまつて）から、一応、これ迄は、その様にするものだ云う事にのみとめていたのを、やり方とか、出来工合とかに注意をむけて行かなければならないと思ひます。

例えば、これまでは、食前食後にうがいをする、と云うことだけでは、それが、ブクくと、ガラくとにわけて、どちらからも上手に出来る様にするとか云う事です。

どんな事をとりあげたらよいかは、その所や、幼児の状態で違ふと思ひますが、大体次の様なことは考えられるのではないかと思ひます。

○うがいが、ガラ／＼が上手に出来る様に。

○歯ブラシの練習（家庭ではもつと早くしている方もあります）
うが、保育所対象の家庭では、少いでしよう）

○鼻をぬぐうだけでなく、片方う、おさえて、フン／＼とかむこ
とを覚える。

○手洗いの後、よく拭きとる様に。

○用便の後や先に、便所が清潔かどうかを気にする様に。（上手に用便をする事）

○食後の後片づけがきちんと出来る様に。

○ぬいだ衣服をまとめる丈でなく、きちんとたゝむ様に。

○シーツを年長の幼児と一緒にたゝむ。或は、保母と一緒にたゝむ。

(八月頃四才になつた幼児は、その頃にもう、保母と向きあつて両端をもつて、シーツがたゝめますし、自分の布団に、自分でシーツがしけます)

これらのことを、一日の保育プログラムの夫々の場面にあてはめて行けばよいと思います。氣長に、ゆつくりと、しかし、最初に、よいやり方を示しましょう。

歌を選ぶにも、目的をもつ製作、たとえば、何々を折る、とか、切るとか云う時、この年令は、あくまで発達度を先に見るべきで、行事とか季節へむかわせてさせるべきではないと思います。自由な遊びで出来上つて行つたものを、その時の行事に、上手にあてはめてあげるのが保母の役目ではないかと思ひます。やたらな自由保育ではなく保母の心がまえの中に、発達させたい願ひをもつた環境設定の豊さと変化を与えるべきでしょう。

四月から歌う歌をえらんで行くにしても、へ調、或はハ調の持つ、音高、調子、ニュアンスの感じは、リズムもなるべく同じ様なものを選んできかせたり歌つたりしている中に感じとられましよう。その他の種類は、大きい組の人達が、正しく歌うのをきいていきますから、種類が少い等、心配する必要はありません。折紙にしろはさみにしろ、やさしい基本と、自由な練習が重つていれば、何か

目的物にむかつた時は、困難を喜んで、克服するでしよう。こんな風にしていたら、全体の計画である、創作展や、人形劇場に参加出来ないし、参加しても、みつともないと思うのは、大人の保母のみえでしよう。年少児は、そのあふれる生活の喜びを表現し創作したのですから、立派にかざつてあげたいものです。人形劇の切符作りは、直線切りを少しづつ、自由の中にはめこんでおけば、この頃には出来ます。年令が低ければ低い程、食器でも、その他の器物でも、上等の品のよいものを揃えたいし、きくもの見るもの、わからなくても、美しいと感ずるものを与えたいと思ひます。二、三才児の特徴は、情緒的にものを把握するのですから――。

この月頃に四才になる幼児が多くなるのですから、言葉のやりとり、いゝ、ひゞきの持つ言葉をと心がけたいし、韻をふくんだ文や詩の反唱等を、遊びの中で扱いたいものです。お話は、いつもくく大勢集めてすべきものときめないで、庭の日向や、部屋の一隅、思ひくくの姿勢でき、ほれたいものです。

三才児が、四十人以上等という保育園は、真剣に、保母の人数、他の組の保母の協力などについて、頭を悩まし、計画や、取扱い方を十分に研究しないと、児童のための幸福な場所が、坊く親の為の幸福と云う逆コースをとるのではないでしようか。